

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名【新】農畜水産業の革新的経営環境強化プロジェクト事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 農業研究推進係 電話番号：058-272-1111(内4027)

E-mail：c11411@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 12,944 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

| 区 分 | 事業費 | 財 源 内 訳 | | | | | | | |
|-----|--------|------------|------------|------------|------------|-----|-----|-----|------------|
| | | 国 庫 支出金 | 分担金 負担金 | 使用料 手数料 | 財 産 収 入 | 寄附金 | その他 | 県 債 | 一 般 財 源 |
| 前年度 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 要求額 | 12,944 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12,944 |
| 決定額 | 12,944 | 5,719 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,225 |

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

農業を含む経済のグローバル化が進む中、農畜水産業の振興には競争力の強化が喫緊の課題となっている。

異業種で開発が進むICTやAI技術の農業分野への活用が進みつつある一方で、家畜や魚などのDNA(ゲノム)解析技術が進み、これら最先端の技術を活用する事で、農業生産を革新的に向上させ、競争力を強化することが可能となってきている。

また、国が策定した「みどりの食料システム戦略」の具体的な取組には、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現することとしており、先端技術を活用した新たな食料生産システムの構築が期待されている。

(2) 事業内容

本県の特徴ある品目(天下富舞、夏秋トマト、飛騨牛、酪農、ポーノポーク、アユ)について、AI、ゲノム解析技術等の先端技術を活用し、革新的な技術・品種開発を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県に特化した品目や技術については、本県で研究開発する必要があるため、県で負担する。

一部、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用する。

(4) 類似事業の有無

県として戦略的に取り組むべき研究課題ごとにプロジェクト事業を立ち上げている。

3 事業費の積算 内訳

| 事業内容 | 金額 | 事業内容の詳細 |
|-------|--------|---------------------------|
| 旅費 | 774 | 調査研究に関わる現地調査、研究会等への移動経費 |
| 需用費 | 7,443 | 調査研究のための消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕費 |
| 役員費 | 951 | 通信運搬費等 |
| 委託料 | 1,000 | 共同研究機関に研究を委託する費用 |
| 備品購入費 | 2,766 | 研究機器の購入 |
| その他 | 10 | 調査研究にかかる負担金 |
| 合計 | 12,944 | |

決定額の考え方

財源については、デジタル田園都市国家構想交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業・農村基本計画」（R3～R7）では4つの柱「ぎふ農業・農村を支える人材育成」、「安心して身近な『ぎふの食』づくり」、「ぎふ農畜水産物のブランド展開」、「地域資源を活かした農村づくり」を定めている。これに基づく重点施策に「ブランド展開を支える新品目の創出と生産流通技術の開発」が位置付けられている。

(2) 国・他県の状況

農林水産省策定の「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた具体的な取組に「高い生産性と両立する持続的生産体系への転換」が位置付けられた。

(3) 後年度の財政負担

技術開発には5年間程度必要であるため、本事業は令和10年度まで実施する。

(4) 事業主体及びその妥当性

本県に特化した品目や技術については、本県で研究開発する必要がある。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

| |
|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県研究機関が持つシーズと研究資源の総力を結集し、民間企業や生産者、大学等と連携し、令和10年度までに開発技術の実用化・普及定着を図る。

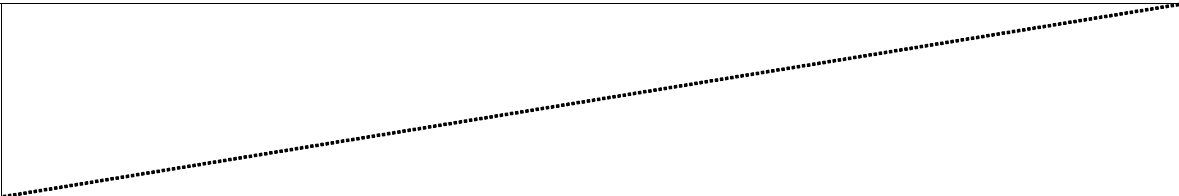
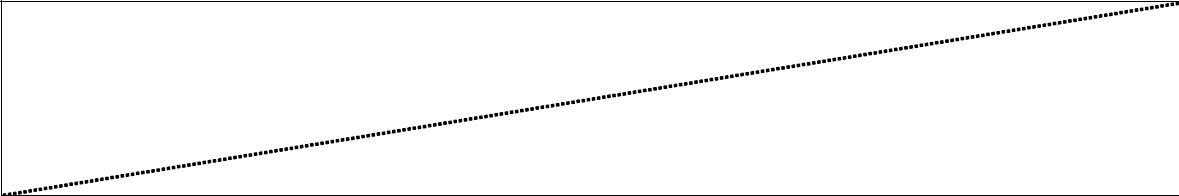
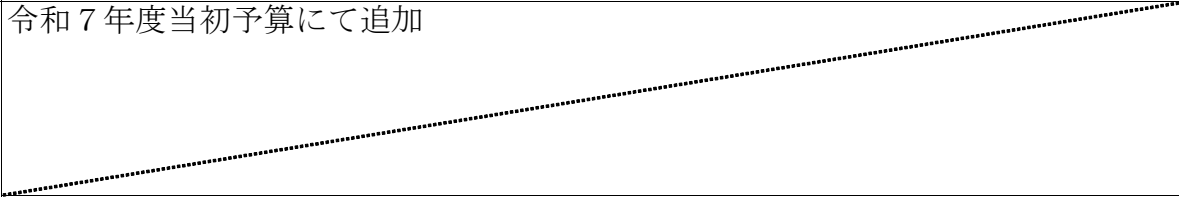
（目標の達成度を示す指標と実績）

| 指標名 | 事業開始前 (R) | R4年度 実績 | R5年度 目標 | R6年度 目標 | 終期目標 (R10) | 達成率 |
|----------|--------------|------------|------------|------------|---------------|-----|
| | | | | | | |
| ①技術移転の推進 | | | | 0 | 7 | - |
| | | | | | | |

○指標を設定することができない場合の理由

| |
|--|
| |
|--|

（これまでの取組内容と成果）

| | |
|-------|--|
| 令和3年度 |  |
| | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和4年度 |  |
| | 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |
| 令和5年度 |  |
| | 令和7年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ % |

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)
3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価)

- ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

- 3：期待以上の成果あり
- 2：期待どおりの成果あり
- 1：期待どおりの成果が得られていない
- 0：ほとんど成果が得られていない

(評価)

- ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

- 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)

(今後の課題)

- ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

AIやゲノム解析技術等の応用により、省力管理に向けた技術及び新たな種畜・種苗を開発することで、農業分野の生産性を高めるとともに、省力化を図ることを可能とする。

(次年度の方向性)

- ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課

組み合わせて実施する理由
や期待する効果 など